

自己紹介／交通ジャーナリスト 鈴木文彦

- 1956（昭和31）年 山梨県甲府市生
- 小学校の初めに東京都国立市に転居
- 1977（昭和52）年4月に東北大学理学部地学系に入学～卒業の1981（昭和56）年3月まで仙台市に居住
- その後東京学芸大学大学院修士課程（地理学）に進み、1984（昭和59）年修了
- 大学院在学中から月刊誌「鉄道ジャーナル」に取材記事を書き始め、結果そのまま現職に

2022/10/14

私が住んでいたころの仙台の交通

●鉄道はまだ新幹線開通前の国鉄線で特急「ひばり」などで上野まで約4時間、仙石線は「国電」と呼ばれていたが、東北・仙山線はまだ「汽車」の時代の名残

●仙台市交通局は1976年に仙台市電が廃止となって市営バスのみの営業～それでも塩釜や岩沼まで足を延ばしていた

●宮城交通は1970年の3社合併の名残が色濃く残り、経営状態はかなり悪化、年の半分は春闘が続いた。1979年に本格的に名鉄が経営に参加

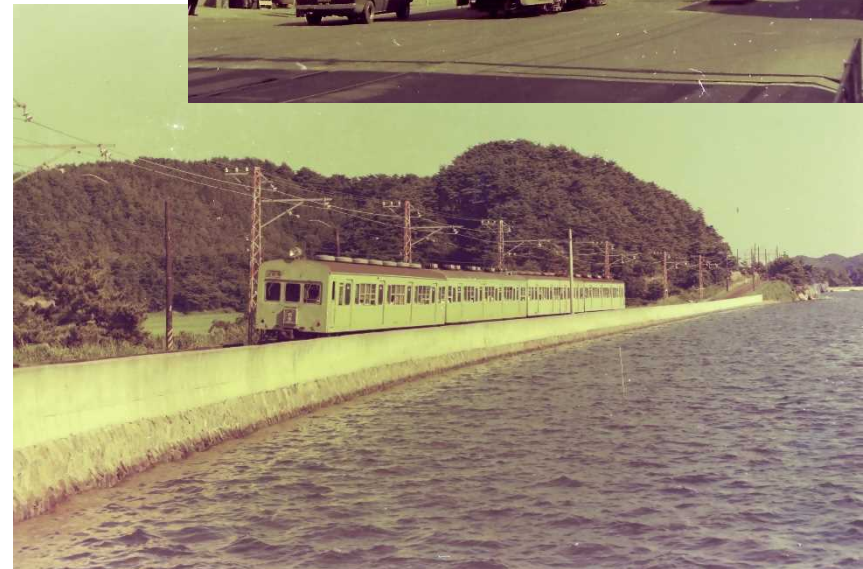
≡私の仙台転居とほぼ同期の宮城交通と仙台市営の新車（宮22か980～1060ぐらい）



2022/10/14

鉄道はこんな時代だった

左上から＝東北本線特急「ひばり」（船岡）／電気機関車が牽く客車の仙山線普通列車（熊ヶ根）／廃止直前の仙台市電／ウグイス色の仙石線旧型電車（陸前大塚）



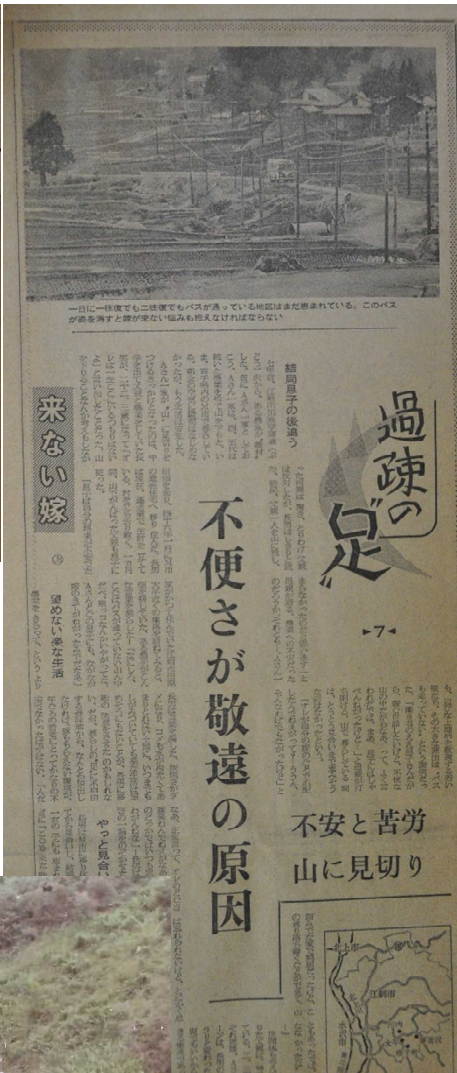
2022/10/14

私の交通ジャーナリストとしての原点

- 宮城交通も仙台市営も車種が雑多で車掌乗務専用車もまだ多く、非常に興味深かった
- 厳しい状況だった宮城交通は春先に春闘が始まると夏過ぎまで引きずってストを繰り返した
- そんなとき河北新報で「過疎の足」という連載～バスが消えてゆく過疎地域の交通に興味を持ち、宮城・岩手の現地を歩く
- 一方で長期休暇時は故郷の山梨交通でアルバイトの車掌として路線バスに乗務～現場を体験
- もうずぶずぶと抜けられなくなっていた



交渉は依然進展なし
48時間スト 20万人に影響

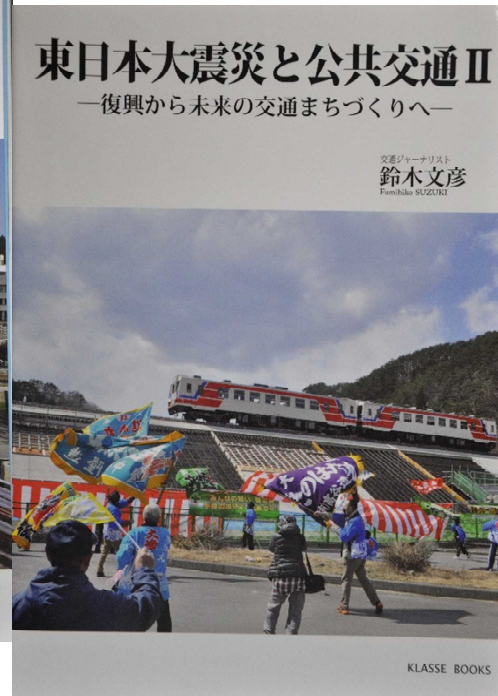
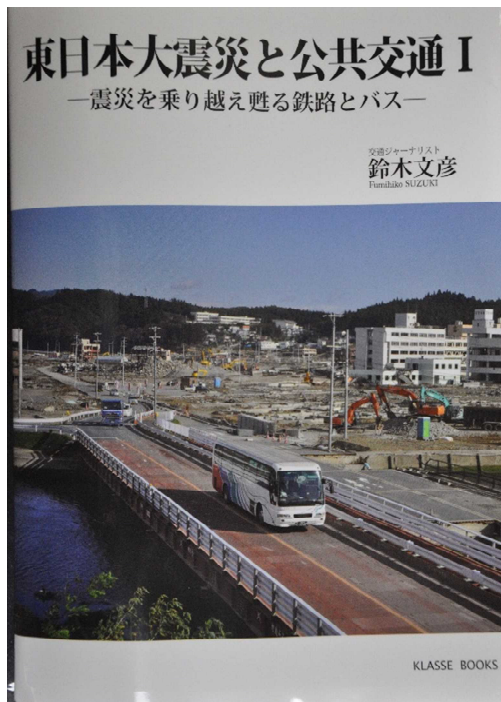


交通ジャーナリストとして38年

- 大学院在学中の1983年に指導教官のアシスタントとして「鉄道ジャーナル」に関わり...
- 1984年には「キミ、丸森線なら土地勘あるよね」と言われて国鉄特定地方交通線としての丸森線の取材記事で独り立ち
- 1985年1月号から「バスコーナー」を一任でもらう
- ここからバス・鉄道（特にローカル）のライターとしての生活
- 1988年ごろからバス事業者に高速バスや地方バスのアドバイザーとして関わり...
- 1995年ごろから地方自治体の交通政策のお手伝い



2022/10/14



東北地方ともずっと関わり続けてきた

- いつの間にか宮城交通・岩手県交通・岩手県北自動車・JRバス東北などと長い付き合いに
- それらがきっかけともなって東北地方の行政とも交流が拡大（岩手県が多かったが宮城県でも仙台市や大崎市など）
- そして「東北仕事人」の役目を拝受
- 東日本大震災では（自身も青森で被災したが）看過できず、記録と取材を7年間続けて著書を上梓（2018・4／クラッセ刊）
- フリーで定年がないのをいいことに、元気なうちは続けようかな、と。